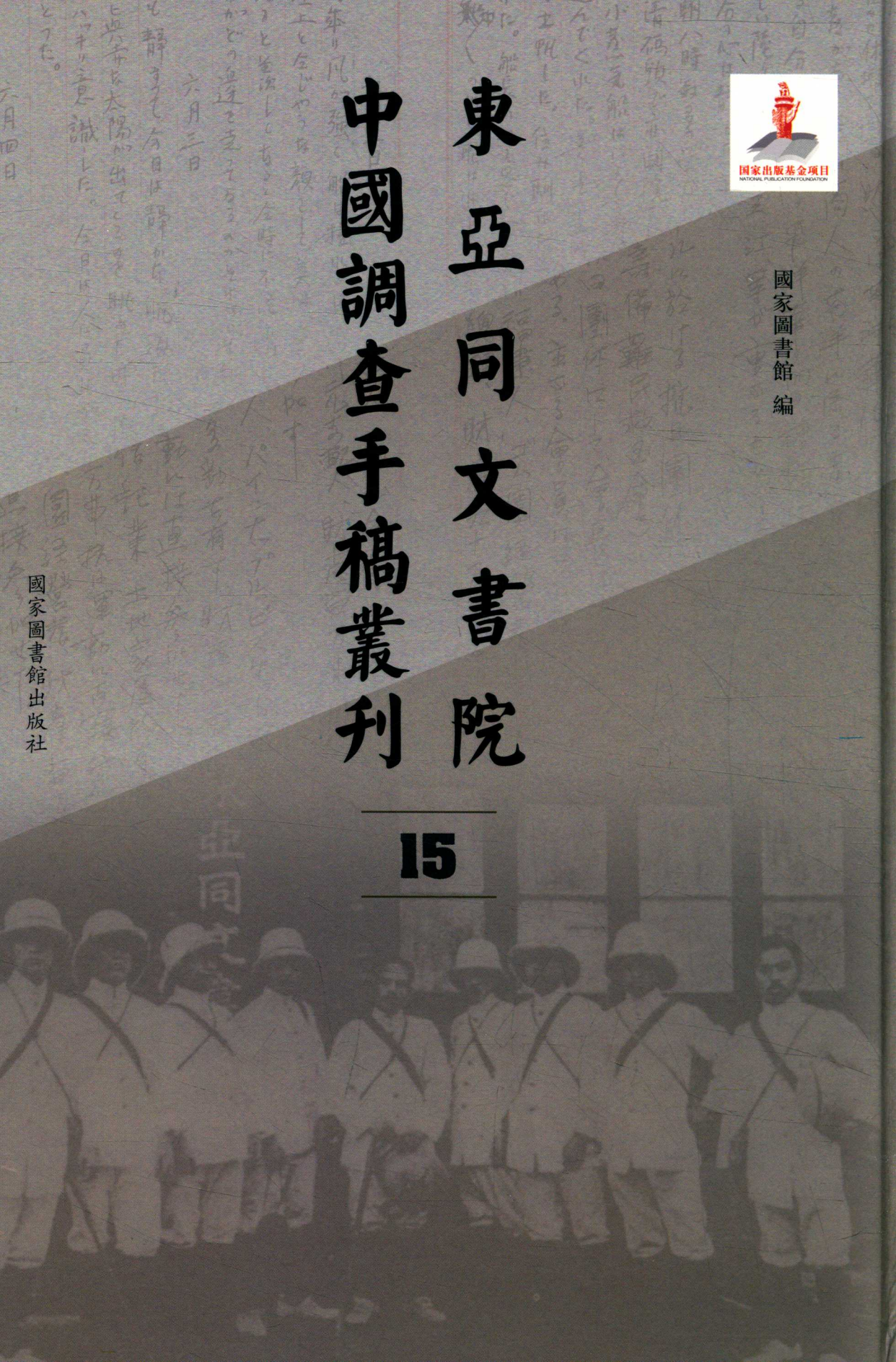
東亞同文書院
中國調查手稿叢刊

15

國家圖書館 編

國家圖書館出版社



国家出版基金項目
NATIONAL PUBLICATION FOUNDATION

東亞同文書院中國調查手稿叢刊

15

國家圖書館 編

國家圖書館出版社

第一五册目録

昭和三年(一九二八)旅行日誌(第二十五期生)

山口慎一　第十二卷第一編……一
日高清磨瑳　第十二卷第二編……一九
中崎一之　第十二卷第三編……四七
森本辰治　第十二卷第四編……九三
佐佐木誠一　第十三卷第一編……一八七
小久保貞雄　第十三卷第二編……二六三
兒嶋真一郎　第十三卷第三編……三三五
永井憲平　第十三卷第四編……四一七
丹吳恒平　第十三卷第五編……五二一
河島次馬　第十四卷第一編……六一五
村上秋夫　第十四卷第二編……六六三

昭和三年度

調査日誌

華南福建經濟調査班

山口慎一

東亞同文書院調査報告用紙

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第十卷

[redacted]調査日誌

一

東亞同文書院圖書印

九日　蘆山丸にて上海を發す。

一日　汕頭着。艀板で上陸。雨模様の天氣。清南事件直後の排日氣分が街路一帶に現はれる。昨年の共產暴動で破壞されたままになつてゐる建物等も見られた。

幸坂洋行に小憩し一般の情勢等聽取。

領事館に赴き領事に面會、先輩刀根木書記生より資料其他に便宜を與へられた。

日本人小學校に赴き參觀後、校長より當地在住台湾人狀況等に關し聽取。

夕刻蘆山丸出帆。

東亞同文書院圖書印

六月二日　午前九時香港入港。小雨。

郵船會社、正金銀行、Bargao & Lindochine、江商株式會社等を廻り旅行上の諸用件を済し又特に江商では先輩木村氏より種々聽取。

六月三日　日曜。日本棉花支店中谷氏訪問。更に郵船会社に赴き藤枝氏、先輩津波氏訪問。それより登山電車に乗り、ピーク廻りをする。市街見學。少し前には支那氏品加日本商店に投石騒行した事件があつたが此の頃には安政廳に依り厳に取締られてゐた。夜、珣々仙に於いて先輩諸氏の招宴に預み談話を聞く。

六月四日　午前九時半より總領事館に赴き總領事に會ふ。更に江商の

木村氏訪問。植物園見学。夜盧山丸に乗る。

五月廿日　夕方四時廣東着。ランチで沙面に上陸。
吉田藏人氏、桑原勇氏（富士合同）飯塚重史氏（日信洋行）門田繁勝氏（台湾銀行）紀野光郎氏（〃）斉藤福三郎氏（三井洋行）三宅温氏（正金銀行）等の諸先輩に會う。
なほ電通の岩崎小鹿氏、磯谷剛氏にも會う。

廿六日　朝磯谷氏宅に赴き聽取、資料筆寫。總領事訪問。
廣州市街見物に向う。黄花崗（行く途、去年十二月共産暴動の跡を見、當時の模様を聽く。
中山大學に立寄り戴季陶氏を訪ねたが白雲山に行つてゐる由。李濟琛との間に若干紛糾があつたとかいふ噂さである。

教育廳に智學官張資樸氏を訪ねる。
建設廳に吳鐵城氏を訪ねたが代理の格で鄭第一科長の應接を受けた。
第一公園、六榕寺等見物。
南京省派遣員遠藤氏を訪ね、更に岩崎氏を訪ね政情を聞き更に
桑原氏、澁谷氏等に赴く。

六月七日　澁谷氏、遠藤氏、領事館の是永氏等と會ふ。
午後四時の泰山號で香港へ向ふ。
廣東では南方政局に關する支那側の出版物等得らるかと期待したが缺目であつた。僅かに澁谷氏所藏の蒐集物を見せて貰つて意を慰める外は無かつた。　夜十時頃香港着。

八月八日　めなど丸に乗船　午前十時出帆。暑い。

八月九日　船は海南島を左に見て進む。船は瓊州沖に停ったが時間が無くて上陸出来ない。排日は相當やってゐるらしい。此處に住まれる邦人勝間田氏が船に来訪された。帰途を約した。

八月十日　船は北海に空の港したが排日の故を以て上陸を阻止された。税関吏と話した。

八月十一日　午前十時海防着。税関の検査に続、時間を取られそれから石山旅館へ。保田洋行を訪ねる。同洋行の竹内松治郎氏から種々聴取。暑熱の市街見物後、夜は横山正俊氏の話を聞く。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

六月十二日　午前六時半の汽車で海防発　九時五十分河内着。途中の風物―水田、水牛、煉瓦工場、椰子等が眼を惹く。河内着。松下ホテルへ。領事館に至り角代理領事に會す。Bangde de Lindoduine―行く、市街見物。寫真技師山田氏を訪ねて聽取。下村洋行主下村里寿氏を訪ひ快談を聽く。

六月十三日　河内―老開。暑熱の中を汽車に揺られる。夕方老開着、末松豊作氏に迎へられる。

六月十四日　老開六時四十分発。朝小雨。雲南省に這入る。何となく懐しい気持。沿線の物凄い景色、渇恙と曲屈する線路。夕方阿迷州着。Hotel に投ずる。若い希臨人が来て訪す。

ホテルの主婦は邦人。更に一人の日本婦人も来て話す。

六月十五日　雲南府に向ふ。汽車が連池を過ぎる頃、若い支那の巡査が来て盛んに日本を攻撃し三民主義を説いたのは憂鬱だった。夕方昆明市着。昨夕から知り合ひになった例の希臨人に連れられ先づ府上洋行　府上金三郎氏を訪ね　伴はれて　佐田洋行　溝延總平氏を訪ね　歓待を受ける。　恰度我々の来たのと行き違ひに大連　亜東印画協会の櫻井一郎氏が南行された旨を聞いた。東陸病院の垣内氏、玉木氏にも會った。夜、溝延氏から資料を得　筆寫、質問等する。

六月十六日　昆明の街を歩いて領事館に赴く。中野領事夫妻にお會ひし種々聴取。乾書記生、若林氏等にも面會。色々話し

資料も借りる。パス、ポートの査證のためフランス領事館へ行き、それから公園、博物館、東陸大學等を觀、唐繼堯邸にのられる原爆一部宮を訪ね、唐氏邸宅を一巡、後方の未完成の墓地、それから加藤完夫氏の碑、觀音寺等に立寄り併せ依頼する。

富博銀行に李氏を訪ねうかがきき印刷物を貰ふ。若い李氏曰く「諸君は雲南事件をどう思ふか、」と。

六月十七日　日曜、雲南班と共に昆明地を辿り西山行きをやる。西山の頂き、此處に佇んだ書陵人の姓名を書き列ねてゐる、我々の名も刻まれた。

夜、原主人の招宴で在留邦人の主だった人々とお會ひした。岩男氏から色々聚取した。

六月十一日　領事館へ行き安藤司書へ行き王秀華に會ふ。愉快な通訳官がゐた。先頃雲南赴日教育視察團長として日本に赴き帰朝した省立高等師範教員李耀南氏と領事館の乾氏との御世話に依り教育廳に廳長代理を訪ね建設廳に胡氏を訪ねそれぐ聚取。更に省政府に赴いたが主席岳軍龍雲氏は會議中の故を以て會へず。

此度の商務印書館に赴き本を買つた。

六月十九日　雲南府を去る。夕六時阿迷州着。紫自の軍需長常炳魁といふ男と乗合せ話した。阿迷州市街見物。

六月二十日　阿迷州―老開。再び佛領印度支那に帰つて来ると堪らなく暑い。

東京国文書院調査報告用紙

六月二十日　老開を發つ。慢慢なフランス兵と同車。廣西の軍官學校の教官の劉といふ男と話す。

五時半河内着。今夜は順化へ直行する夜行車（一週一回）があるのだが、パス・ポートの查証が出来ずやむなく河内泊り。

六月二十二日　河内。領事館へ行き皆川氏より種々聽取。

博物館、東佐大學、中學校、認者祠、紀清閣查所、テアトル・ムニシパル、病院、監獄、大佛、植物園、大湖廻り、マーケット等を巡覽。

南業亞一行き買物等をする。

夜、下村氏邸で皆川氏、陳南基氏（失名）等と語り聞く。

六月二十三日　河内―紋。朝六時の汽車で發ち夕方紋着。有名な雜貨商お愛夫人に迎へられる。數日前、近郊の農園に働いてゐた林といふ邦人が

自働車の奇禍で死去された由でためにドンホイの倉田氏と順化の中山
磯治氏が来着され種々聴取。

六月二十四日　紋―順化に午後四時五十分着。市街見学。

六月二十五日　順化滞在。Bureau Officiel du Tourisme へ行き王城拝観の手続を
了し王城、博物館、犠牲壇、啓定王墳、Tombe de Dong-khanh, Tombe de
Tu Duc 等見学。

六月二十六日　予定線外なれども ツーランまで汽車にてそれより乗合自働車で會安
(フエイホウ)へ赴く。此の日の汽車では囚人のやうにて護送される農園行きの安
南人労働者群を見て感銘深し。書 フエイホウ着、日本人街、日本人橋を観、
政廳へ赴きそれより外郭に在る邦人墓碑を廻る。番太と呼ばれる番長の家

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com